

場所・面積 大阪府大阪市、0.8 ha

管理目的 積水ハウスのグローバルビジョン「『わが家』を世界一幸せな場所にする」の実現のため、事業として取り組んでいる環境取組の一つである生物多様性に配慮した庭づくりの取り組み「5本の樹」計画の実践の場として、地域の生物多様性保全に貢献することを目的としている。また、地域住民の憩いや環境教育、レクリエーションの場として利用してもらうことも目的の一つ。

サイト概要 新梅田シティの公開空地に創設した「新・里山」（約8000㎡）は、「3本は鳥のために、2本は蝶のために、地域の在来樹種を」という思いを込めた「5本の樹」計画に基づき、2006年に再造成された。都心にいながら約100種500本を超える中高木や200種以上の草花が咲き乱れる里山の原風景を望むことができる。生物多様性に配慮した循環型管理手法も奏功し、絶滅危惧種を含む40種以上の野鳥や50種を超える昆虫類など多くの生き物が確認されるなど、豊かな生態系が育まれている。オフィスワーカーや近隣住民、観光客などにも「憩いの場」として親しまれ、都市の自然を介した地域コミュニティの場としても活用されている。



土地利用の変遷 元々は工場跡地であった場所に1993年梅田スカイビルと共に、当初は「花野」としてオープン。その後「5本の樹」計画が2001年からスタートしたことを受け、その実践の場として2006年に「新・里山」へリニューアルし、現在に至る。

サイト周辺の環境 JR大阪駅から徒歩10分ほどの大阪都心部に位置しており、周辺にはオフィスビルなどが多い。サイトの北側には淀川が流れている。

アピールポイント 高木はコナラやクヌギなど、日本の原種や在来種を中心に植栽している。そのために、雑木林を利用できる野鳥や昆虫が多くなり、生態系が安定している。剪定や除草残渣についても通常の公園のようにゴミとして処分してしまわずに場内で堆肥化する他、減農薬の有機植栽管理など「環境配慮型植栽管理」を実践している。野菜作りの一部は、専門家の指導の下で、ボランティア活動の参加を呼びかけている。節分用の大豆や芋など、参加した人たちにとっては、収穫の喜びはもちろん、環境や季節感、「食」について学習するきっかけにもなっている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

都心にいながら約100種500本を超える中高木や200種以上の草花が咲き乱れる里山の原風景を望むことができる。生物多様性に配慮した循環型管理手法も奏功し、多くの生き物が確認されるなど、豊かな生態系が育まれている。

【主な植生】

クヌギ、コナラ、シラカシ、アラカシ、ヤマボウシ、ヤマザクラ、ヤマハギ、サンショウ、ヤブランなど

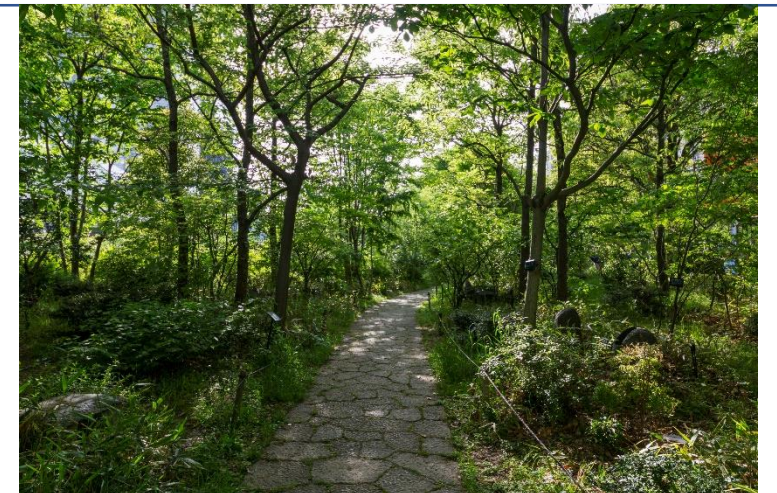
【確認された主な動植物】（いずれも2021年、新里山敷地内での踏査によって確認）

アオスジアゲハ（学名：*Graphium sarpedon* 成体）
 ヤマトシジミ（学名：*Zizeeria maha* 成体）
 ジャコウアゲハ（学名：*Byasa alcinous* 幼体）
 ナガサキアゲハ（学名：*Papilio memnon Linnaeus* 幼体）
 チョウゲンボウ（学名：*Falco tinnunculus* 成体）
 モズ（学名：*Lanius bucephalus* 成体）
 ヤマガラ（学名：*Sittiparus varius* 成体）
 メジロ（学名：*Zosterops japonicus* 成体）
 シロハラ（学名：*Turdus pallidus* 成体）
 ハクセキレイ（学名：*Motacilla alba lugens* 幼体）
 カワラヒワ（学名：*Chloris sinica* 成体）



写真の撮影年月：2016年4月26日

写真の説明：北側からの俯瞰写真（都市部にある里山）



写真の撮影年月：2016年4月26日

写真の説明：里山内の雑木林

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

新里山内の樹林地で、地域住民なども多く訪れている

【対象となる動物種】

メジロ（学名：*Zosterops japonicus* 成体）

2018～2021年、主に冬期に新里山敷地内での踏査によって確認

イソヒヨドリ（学名：*Monticola solitarius* 成体）

2020年と2021年、主に冬期に新里山敷地内での踏査によって確認

【動物が利用している生活史】

採餌、休息、移動など

メジロは季節によって個体数が大きく変化し、冬は10～20羽規模の群れで移動しながら採餌する様子がよく見られた。冬季は特に柿の実やツバキ類の花蜜、春はサクラの花蜜を好んでよく訪れた。

イソヒヨドリは春の繁殖期及び冬期に確認された。



写真の撮影年月：2021年1月15日

写真の説明：採餌するメジロ



写真の撮影年月：2021年1月29日

写真の説明：熟柿を食べるイソヒヨドリ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】 ※基本的に常駐管理をしている</p> <p>植栽管理（年1回程度の自然樹形を崩さない枝抜き剪定、約2年に1回の施肥、日々の巡回による目視点検と捕殺作業を主にした病害虫防除、年4回の除草、年20回の自動灌水と適宜死角箇所の手灌水、適宜枯死木の捕植や支柱の追加などの保全業務）</p> <p>田畑栽培・維持管理（年1回もち米・うるち米、年6回野菜を栽培し、里山の景観を創る。原則、無農薬栽培を行い、収穫よりも里山全体の生態系や多様性を優先する）</p> <p>畦芝管理（年5回、機械及び手刈にて生態系のバランスを崩す可能性のある植物のみ取り除く）</p> <p>下草管理（年4回、機械及び手刈にて自然が損なわれない程度に下草を刈り込み、里山の景観を創る）</p> <p>ため池管理（年6回、植栽の間引き・捕植・清掃を行い、池の水位維持調整と水生植物の生育を助ける）</p> <p>バタフライガーデン管理（年5回、整姿剪定・播種・捕植・手刈除草を行い、景観維持と蝶や昆虫のハビタット空間の維持をする）</p> <p>堆肥作り（年2回の落葉等の搬入、年5回の堆肥置場の天地返し・腐葉土敷き込みを行い、植栽エリアに堆肥として使用する）</p>	<p>【モニタリング対象】 鳥類、蝶類</p> <p>【モニタリング場所】 新里山全体</p> <p>【モニタリング手法】 踏査による目視または鳴き声による識別、及び捕獲</p> <p>【実施時期及び頻度】 （過去実績） 鳥類：（2017～2021年、年1回程度 2021年は29回） 蝶類：（2014～2021年、年1回程度 2021年は25回） 今後の予定：3年に1回程度（春と秋の年2回）</p> <p>【実施体制】 積水ハウス及び連携団体</p>